

「器楽・声楽」の授業における事前指導の研究

——アンケートに基づく弾き歌い曲習得状況の分析（1）——

武 藤 純 子・秋 山 文 代・大 西 ゆ み
喜 多 ち え・幸 野 紀 子・堀 崎 峰 子
由 井 敦 子・坂 井 康 子

A Study of Preliminary Instructions at Instrumental and Singing Courses: An Analysis of Student Surveys on Acquiring the Skill to Simultaneously Sing and Play the Piano (Part 1)

MUTO Junko, AKIYAMA Fumiyo, ONISHI Yumi, KITA Chie,
KONO Noriko, HORISAKI Mineko, YOSHII Atsuko and SAKAI Yasuko

Abstract: This study explores the effect of preliminary instructions on college students' ability to learn new songs to sing while playing the piano during piano lessons offered in the Department of Childhood Development and Education at Konan Women's University. Although students are required to learn various types of pieces for simultaneously singing and playing the piano to complete the "Instrumental and Singing I and II courses," which are courses for kindergarten, elementary school, and nursery teacher training, there are occasions when it takes great effort and time to do so. That is, there are pieces which have complicated rhythms typical of popular music, and tunes that students are unfamiliar. Because students get only a limited period of time to learn musical pieces during piano lessons, at kindergarten, and elementary school and nursery school environments, it is essential for them to learn these pieces efficiently. Based on the results of student surveys conducted in 2018 and 2019, we analyze the effect of preliminary instructions on students' skill acquisition in simultaneously singing and playing the piano, and examine efficient ways to introduce these preliminary instructions.

Key Words: Music Education, Simultaneously Singing and Playing the Piano, Preliminary Instruction, Piano Lesson, Rhythm, Kindergarten, Elementary School and Nursery Teacher Training

要旨：本研究の目的は、甲南女子大学人間科学部総合子ども学科の幼稚園教諭・小学校教員養成、および保育士養成における「器楽・声楽Ⅰ、Ⅱ」の授業内のピアノ実技指導に関して、演奏が困難な弾き歌い曲や未知の曲の習得に、事前指導の導入がどのような効果があるかを明らかにすることである。本授業では、様々な弾き歌い曲の習得を必須としているが、ポピュラー音楽などに代表されるリズムが複雑で難しい弾き歌い曲や、学生にとって未知の弾き歌い曲の場合、その習得は大変な努力と時間を要する。実際、授業内であっても、保育、教育の現場であっても、必要とされる曲の習得に掛けられる時間は限られており、効率的な曲の習得の為の指導は必要不可欠である。そこで、2018年度と2019年度のアンケートデータから、事前指導の導入によって学生の習得率は上がるのか、また、どのような事前指導が効果的なのかを比較分析するⁱ⁾。

キーワード：音楽教育、弾き歌い、事前指導、ピアノ指導、リズム、幼稚園教諭・小学校教員・保育士養成

I はじめに

本研究は、甲南女子大学人間科学部総合子ども学科「器楽・声楽Ⅱ」の授業内で2018年度と2019年度に行ったアンケート調査を基に、リズムが難しい弾き歌い曲や未知の弾き歌い曲習得時の、効果的な指導手順を提案するものである。「衣川ほか2018」では、保育園や幼稚園の現場で使われる弾き歌い曲には、必ずしも童謡やリズム曲、手遊び歌などの簡潔で明確なリズムの曲ばかりではなく、流行りのポピュラー音楽などメロディーのリズムも原曲の伴奏もかなり難しい曲が多く含まれていることが示されているⁱⁱ。また同論文では、保育実習や幼稚園実習で使用された弾き歌い曲は、テキストにない曲がテキスト掲載曲の約2倍の数にもなること明らかにされているⁱⁱⁱ。その為、「指導者も学生も原曲伴奏にこだわることなく、それぞれが出来るやり方を見つけ、読譜力や初見力をつけて様々な曲に挑戦する」^{iv}ことの必要性が指摘されている。本学科でのピアノ実技の授業では、バイエル等の教則本を使用しての読譜指導やリズム曲集を使用してリズム感を養う指導を丁寧に行ってきた。難しい原曲伴奏を簡易伴奏とする際の弾きやすいアレンジについては「武藤ほか2019」^vで明らかにし応用しているが、メロディー自体が難しく複雑なリズムを持った曲や未知の曲を読譜し演奏する際の、学生の苦労と時間の消耗は、従来の指導だけでは軽減せず、その解決法は未だ課題となっている。そこで本研究では、リズムの難しい曲や未知の曲などを限られた時間内に効率的に習得させることを目的に、事前指導を導入し、その効果についてアンケートを基に考察する。

Ⅱ 2018年度アンケートと 本研究の動機について

2018年度は本学科の「器楽・声楽Ⅰ、Ⅱ」担当教員によって、授業履修者に対し「弾き歌いの伴奏についてのアンケート」が実施され、その結果が「弾き歌いの指導における簡易伴奏の研究－アンケート調査に基づく簡易伴奏スタイルの分析－」としてまとめられた^{vi}。アンケートの際に使用した弾き歌い曲は、《ちゅうりっぷ》、《大きなくりの木の下で》、《どんぐりころころ》、《山の音楽家》、《森のくまさん》の5曲で、これらは80%以上の学生にとって大学入学以前からの既知曲とのデータもある^{vii}。この2018年度の研究

は単音伴奏と三和音のコード伴奏という簡易伴奏スタイルの違いにフォーカスしたものであった為、選曲の基準はメロディーの練習に時間を割かず、伴奏に集中できることであった。使用した弾き歌い曲は、それぞれ単音伴奏や三和音伴奏など5種類の伴奏アレンジを加え、アレンジ1番～5番として徐々に難易度が上がると考えられる順に並べ、1週間で30分間の練習という時間制限を設けて習得状況を調査した(アレンジの例として《ちゅうりっぷ》を譜例1に示す)^{viii}。調査の結果は図1に示しているが、易しいとみなされたアレンジ2番までしか習得出来なかったのは全体の約8%のみであった。また調査の結果、初心者でなくても三和音によるコード伴奏の方が、ベース音などの単音による伴奏よりも弾きやすく、時間をかけずに習得できることが分かった。2018年度は、上記の弾き歌い曲とは全く異なるタイプの《みんなともだち》を使つてのアンケートも実施した(この《みんなともだち》と《ちゅうりっぷ》等のアンケート用紙は末尾の資料1に示している)。譜例2に示した様に、伴奏アレンジは《ちゅうりっぷ》とほぼ同様のスタイルで1番～5番とした^{ix}。《みんなともだち》の認知度は非常に低く、「衣川ほか2017」の研究でも約40%の学生しか、大学入学以前に知っていた子供の歌として挙げていなかった^x。また、この曲のポップス調のメロディーは、譜例2が示している通り、8分音符の連続(♪)を、3分割したリズム(♪♪♪)に読み替える必要があるため、リズムが複雑で譜読みが困難であることは予想された。図1の通り、結果は約30%の学生がアレンジ2番までしか習得出来ず、その内5%の学生に至っては、アレンジ1番も弾くことが出来なかった。先の《ちゅうりっぷ》等を使ったアンケートでは、アレンジ1番、または、2番という易しいアレンジしか習得出来なかった学生は約8%だけであり、アレンジ1番も弾けなかった学生が皆無であったのに比べると、30%という多くの学生が《みんなともだち》に苦労していることが浮き彫りになった。資料2に示した様に、《みんなともだち》の特にアレンジ1番に寄せられた難しかった個所の回答(自由記述)によると、多くの学生がまずメロディーのリズムに苦労し、和音や単音の伴奏スタイル云々以前の問題があることが明らかになった。また、曲を知らないため、譜読みに大変時間がかかった様子が窺えた。この結果を前に、リズムが難しい曲や未知の曲を如何に短時間でスムーズに指導し習得させられるかが次の課題となった。本研究はこの問題の解決を図ることを目的とする

譜例 1 《ちゅうりっぷ》(2018)

1番
さいた さいた ちゅうりっぷの はなが

2番
さいた さいた ちゅうりっぷの はなが

3番
さいた さいた ちゅうりっぷの はなが

4番
さいた さいた ちゅうりっぷの はなが

5番
さいた さいた ちゅうりっぷの はなが

譜例 2 《みんなともだち》(2018)

1番
みんなともだち- ずっとずっと ともだち-

2番
みんなともだち- ずっとずっと ともだち-

3番
みんなともだち- ずっとずっと ともだち-

4番
みんなともだち- ずっとずっと ともだち-

5番
みんなともだち- ずっとずっと ともだち-

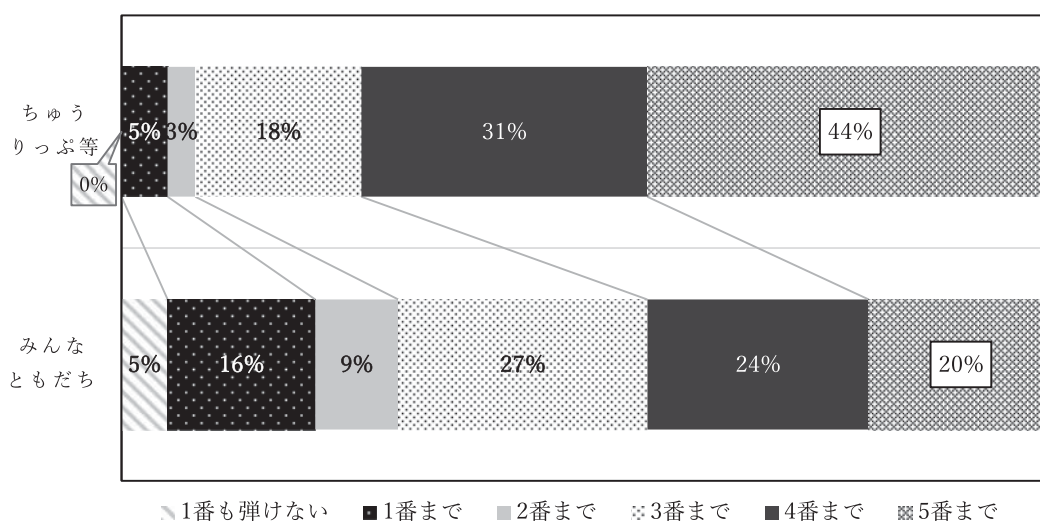


図1 2018年度アンケート アレンジ1番～5番の達成状況比較

ものである。

Ⅲ 2019年度の課題と アンケート内容の改良点

2018年度の《みんなともだち》を使ったアンケートで浮き彫りになった課題ーリズムが難しく演奏が困難な曲や未知の曲の効率的な習得ーは、教員・保育者を養成するためのピアノ実技の授業において常に直面している課題でもある。「久保 2017」では、ピアノ実技の授業の中でピアノ経験5年未満という比較的经验

の浅い学生を対象に、リズム感を養成する指導としてリズムと楽譜を結び付ける為に楽典と付点のリズムを中心としたリズム打ちの実施の強化、リズム聴音を挙げている^{xi}。これは時間をかけて指導することによって基本的なリズム感が身に付く為に重要な指導であることに異論はないが、限られた授業時間内で結果を出すには即効性に乏しいだけでなく、アップテンポでリズムが複雑なポピュラー音楽を演奏する場合の応用が効かない^{xii}。「佐藤 2018」では、授業の中で読譜指導を中心としながら、音価ごとに学習を進めていくプロセスを提案している^{xiii}。第1段階として4分音符と4

分休符で構成される《かえるの合唱》などの曲、第 2 段階として 2 分音符や 2 分休符、全音符や全休符が含まれる《ぶんぶんぶん》などの曲というプロセスである。これはリズムの基礎を養う為には効果があるが、童謡などの比較的シンプルなリズムの曲の習得に限定される。やはりリズムが複雑なポピュラー音楽への応用に結び付けるには無理がある。一方で、「高崎 2016」ではリズム感を養成するための手段としてリズムに重点を置いたソルフェージュ指導について論じている。リズム読みやリズム打ちに加え聴音の導入が主であるが、興味深いのは、いつも同じようなテンポではなく時に速いテンポで実施することで即興性が鍛えられることを指摘している^{xiv}。これは時間をかけることでアップテンポなポピュラー音楽のリズム習得へ繋がる可能性はあるが、ピアノの授業とは別にソルフェージュの授業時間をしっかり確保することが前提である為、ピアノ実技の授業時間という枠の中では実現性に乏しい。

そこで本研究では、リズムが難しい曲や未知の曲をよりスムーズに、短時間で習得出来る様にすることを目指し、効果的な打開策を探る。この様な目的を持って、2019 年度の「《みんなともだち》についてのアンケート (2019)」は、器楽・声楽Ⅱを履修中の学生 172 名 4 クラスを対象に実施した (そのうち有効回答は 163 名分)。授業の進行の関係上、クラスによって 2019 年 6 月 4 日、または、6 月 11 日に授業内でアンケート用紙と楽譜を配布、1 週間後の授業でアンケート用紙を回収し、《みんなともだち》の演奏をさせて習得の様子を確認した。アンケートの改良点は次の 3 点である。

(1) 2018 年度の簡易伴奏の研究結果を反映させて、《みんなともだち》の伴奏アレンジに変更を加える。

(2) アンケート用紙と楽譜の配布時に、授業内で事前指導を取り入れる。

(3) アンケートの質問内容を、リズムの習得に関するものとする。

これらの改良点についての詳細は、以下に記述する。

1) 伴奏アレンジについて

譜例 2 に示した様に、2018 年度のアンケートで使用了《みんなともだち》の楽譜はアレンジ 1 番からアレンジ 5 番の順で、伴奏が徐々に難しくなる様に配置された 5 パターンのアレンジで構成されている。メロディーはアレンジ 1 番からアレンジ 5 番まで同じである。アレンジ 1 番は単音伴奏で主として 2 分音符に

よるシンプルな拍子に即したリズム (♩ ♩) を中心としたアレンジとした。音の跳躍も最も平易となるよう配慮した。アレンジ 2 番は同じく単音伴奏であるが、付点 2 分音符 + 4 分音符 (♩. ♩) のリズムを主としたアレンジとした。使われている音はアレンジ 1 番とほぼ同じである。アレンジ 3 番は三和音による伴奏で、I, ii, iii, IV, V, V₇ の基本的な和音に、アレンジ 1 番と同じ 2 分音符を主としたリズムを用いた。和音は左手のポジション移動をなるべく回避できるような配置とした。アレンジ 4 番は臨時記号を多用しセカンダリドミナントなどの借用和音を含む和音に、アレンジ 2 番と同じ付点 2 分音符 + 4 分音符のリズムを主としたアレンジとした。アレンジ 5 番は、アレンジ 4 番と同じ和音を用いた和音伴奏であるが、更に複雑なシンコペーションのリズム (♩. ♩. ♩) を含むアレンジとした。これらアレンジ 1 番からアレンジ 5 番の楽譜を使つてのアンケート結果は、先に記したとおり、非常に多くの学生が習得に苦労した実態が明らかになった。そこで、2019 年度の楽譜のアレンジは次の点を変更した (2019 年度の楽譜は譜例 3-6 に示す。譜例 2 の 2018 年度アレンジと比較参照のこと。また、表 1 に 2018 年度から 2019 年度への変更点と各アレンジの特徴をまとめる)。まず、単音伴奏のアレンジ 1 番とアレンジ 2 番を排除し、全て三和音によるコード伴奏とし、アレンジ A-D の 4 パターンのアレンジとした。これは、昨年度の簡易伴奏の研究で約 87% の学生がコード伴奏の方が弾きやすいと回答したためである^{xv}。更に、全ての和音にコードネームを記し、学生が全ての音符を読まなくてもコードがつかめるよう配慮した。単音伴奏のアレンジ 1 番とアレンジ 2 番を排除したため、アレンジ 3 番より易しいアレンジを提供するため、全て全音符のリズムでアレンジ 3 番と同じ基本的な和音のみを使ったアレンジ A を加えた。これはアレンジ 1 番と同じ程度の難易度だと考えられる。アレンジ 3 番はそのままアレンジ B として使用した。先のアレンジ 4 番の和音は、臨時記号が多く、学生が譜読みをする上で非常に時間がかかっていたため、リズムのみ付点 2 分音符 + 4 分音符のパターンを残し、和音はすべてアレンジ 3 番と同じく基本的なものとし、これをアレンジ C とした。アレンジ 5 番は 2018 年度のままで、アレンジ D とした。これらの楽譜を、アレンジ A からアレンジ D の順で徐々に難しくなる様に配置した。2019 年度のアレンジのうち、アレンジ B とアレンジ D が 2018 年度のアレンジ 3 番とアレンジ 5 番に完全一致しており、アレンジ A

譜例 3 アレンジ A (2019)

みんなともだち A

譜例 4 アレンジ B (2019)

みんなともだち B

譜例 5 アレンジ C (2019)

みんなともだち C

譜例 6 アレンジ D (2019)

みんなともだち D

表1 2018年度・2019年度アレンジの比較

難易度	2018年度	2019年度
易しい ↓ ↓ ↓ 難しい	アレンジ1番 単音・2分音符中心のリズム	アレンジA 基本的な和音・全音符のリズム
	アレンジ2番 単音・付点2分音符+4分音符のリズム	
	アレンジ3番 基本的な和音・2分音符中心のリズム	アレンジB(アレンジ3番と同じ) 基本的な和音・2分音符中心のリズム
	アレンジ4番 借用和音など・ 付点2分音符+4分音符のリズム	アレンジC(リズムのみアレンジ4番と同じ) 基本的な和音・ 付点2分音符+4分音符のリズム
	アレンジ5番 借用和音など・シンコペーションリズム	アレンジD(アレンジ5番と同じ) 借用和音など・シンコペーションリズム

とアレンジCは、2018年度の調査を基に、改良したものである。

2) アンケートの手順と事前指導について

2019年度のアンケート「《みんなともだち》についてのアンケート(2019)」は、2019年6月の「器楽・声楽Ⅱ」の全4クラスで、質問用紙と楽譜(アレンジA-D)を配布し、授業内で事前指導を行った上で学生に持ち帰ってもらい、次の授業までの1週間で1時間程度という練習時間を与え、達成状況を質問用紙の回収と授業での演奏によって確かめた。2018年度のアンケートでは、練習時間を1週間で30分としていたが、《ちゅうりっぷ》などのシンプルナリズムで12小節ほどの非常に短い曲と違い、《みんなともだち》はリズムが複雑なだけでなく、33小節と曲も長い。その為、《みんなともだち》はアレンジが5曲あると初見で最後まで目を通すだけで30分の時間制限の大半が過ぎてしまい、練習する時間がないとの声が相次いだ。初見についてのアンケートではない為、練習に時間が費やせないのであれば、アンケートの趣旨を達成




出来ないということで、2019年度は練習時間を倍の長さの1時間と設定した。先の楽譜の改良、この設定時間の変更、そして以下に説明する事前指導の導入によって達成状況の改善が望まれる。アンケートの楽譜はアレンジAから始めて、アレンジAが弾ける様になったらアレンジBへ、次はアレンジCへという順で練習するよう2018年度と同様の指示を出した。アンケートの楽譜と質問、指示は全クラスで共通であるが、事前指導はそれぞれ異なるものとした。これは、事前指導の内容によって曲の習得がどの様に変化するのかを観察するためである。

全クラス共通の説明事項として、アンケートの趣旨と手順を説明した後、クラスごとに異なる事前指導を行った。4クラスの事前指導内容は表2に示している。1クラスごとに事前指導内容を1項目ずつ増やした。

上記の事前指導後に、アンケートへの回答をスムーズに進める為、全クラス共通で次の3点のリズムについて補足説明を行った。1点目は譜例3-6が示している様に右手メロディーの8分音符の連続(♪)を、3

表2 事前指導内容

クラス	教員	学生
1	弾き歌い演奏	アレンジA・Dの楽譜を見て聴く
2	弾き歌い演奏 学生と一緒に弾き歌い演奏	アレンジA・Dの楽譜を見て聴く アレンジA・Dを教員と歌う
3	弾き歌い演奏 学生と一緒に弾き歌い演奏 学生と一緒に弾き歌い演奏	アレンジA・Dの楽譜を見て聴く アレンジA・Dを教員と歌う アレンジA・Dを教員と歌いながら伴奏のリズム打ちをする
4	弾き歌い演奏 学生と一緒に弾き歌い演奏 学生と一緒に弾き歌い演奏 学生と一緒に弾き歌い演奏	アレンジA・Dの楽譜を見て聴く アレンジA・Dを教員と歌う アレンジA・Dを教員と歌いながら伴奏のリズム打ちをする アレンジA・Dを教員と歌いながら伴奏を弾く

分割のリズム（)に読み替えて演奏すること、2点目は右手メロディー3小節目のシンコペーションのリズム（)について、3点目はアレンジCの左手パートに連続して出てくる付点2分音符+4分音符のリズムパターン（)についてである。また、歌唱については、歌詞を明瞭に、明るく、覇気を持って、表情は柔らかく、聴かせる相手を想定して目配りも加える、といった注意を促した。

3) アンケートの質問項目




今回のアンケートの質問項目は、以下の6点とした。実際のアンケート質問用紙は資料3に示している。

(1) 大学入学までのピアノ経験：未経験・1年未満・1～4年・5～10年・10年以上のどれか？

(2) 1週間での達成状況：アレンジA-Dのうち、どこまで弾けたか？

(3) 事前指導は役に立ったか：役に立った・まあまあ・役に立たなかった

(4) 授業以外で他の楽器やダンスの経験があるか？：経験がある他の楽器・ダンスの名前とその期間はどれくらいか？

(5) アンケートの楽譜を弾いて、難しさを感じたリズム（複数回答可）：左手ののリズム（アレンジC）・メロディーののリズム（全アレンジ共通のメロディーのリズム）・メロディーのシンコペーション（全アレンジ共通のメロディー3小節目の1-2拍目）・その他（自由記述）

(6) 練習して難しかった個所を、自由な形式で楽譜に直接書き込む。

質問(1)のピアノ経験は、アンケート参加の学生がどの程度のピアノ経験を持って、どの程度まで弾けたかを調査する為の質問である。質問(2)は、前項で説明した事前指導の効果を、配付楽譜の達成度によって確認する為である。また、事前指導に対する学生の率直な感想を知る為に、質問(3)の事前指導についての質問が加わった。質問(4)は、複雑なリズムの曲を習得するに際して、ピアノ以外の楽器やダンスの経験（どちらも授業以外の経験）が助けになるか参考にするためである。質問(5)のリズムに関する問いは、アレンジに含まれるリズムパターンに関する質問である。最後の質問(6)では、練習して難しかった所を、リズムに限らず、自由に回答させた。

IV アンケート調査結果と考察

1) 大学入学までのピアノ経験とクラス分け状況

ここでは、アンケートに参加した学生の大学入学までのピアノ経験と、「器楽・声楽Ⅰ、Ⅱ」の授業におけるクラス分けについて述べる。図2^{xvi}と図3に示した様に、アンケート参加学生のピアノ経験の内訳は、2018年度はピアノ未経験の学生が29%、1年未満の学生が13%である。これに対し2019年度はピアノ未経験の学生が26%、1年未満の学生が10%となっており、初心者とカテゴリー出来るこの2つのグループの合計で2019年度は6%減少しているのが分かる。反対に、ピアノ経験1-4年の学生は2018年度に18%だったのに対し、2019年度は25%となり、7%増加している。ピアノ経験豊富とされるカテゴリーの5-10年と10年以上の学生は、2018年度は其々29%と11%の合計40%、2019年度は24%と15%の合計39%で、ほとんど変わらなかった。2019年度の学生の特徴としては、初心者の学生が減った分、入学までに少しかけピアノ経験を積んだ学生が増えたことだろう。

上記のような様々な経験を持った学生に対し、「器楽・声楽Ⅰ、Ⅱ」の授業は1年次後期（15回）と2年次前期（15回）の一年間の必修科目となっている^{xvii}。各回90分の授業は、45分ずつコード理論や歌唱などを学ぶ全体講義と、3～4人で構成されるピアノ実技のグループレッスンのローテーションで行われる。グループレッスンでは、6名のピアノ担当教員が其々合計30名程度の学生を受け持ち、1年間を通して指導する。1年次の授業初日にクラス分けテストを行い、全体を初心者・準初心者からなる「すみれ」と経験者からなる「つばめ」に分ける。この「すみれ」と「つばめ」でローテーションを組むのである。

ピアノ実技の授業1年間で全学生が教則本、リズム曲、弾き歌い曲の各カテゴリーから単位取得の条件となる曲数を課題曲として習得する。初心者・準初心者の学生は教則本カテゴリーからバイエル8曲、ブルグミュラー1曲、ソナチネ1曲、リズム曲カテゴリーから4曲、弾き歌い曲カテゴリーから18曲を習得する。経験者の学生は、その経験の度合いによって、ブルグミュラーから、または、ソナチネからのスタートとなる。ブルグミュラーからスタートの学生は、教則本カテゴリーとしてブルグミュラー1曲、ソナチネ1曲、リズム曲カテゴリーから8曲、弾き歌い曲カテゴリー

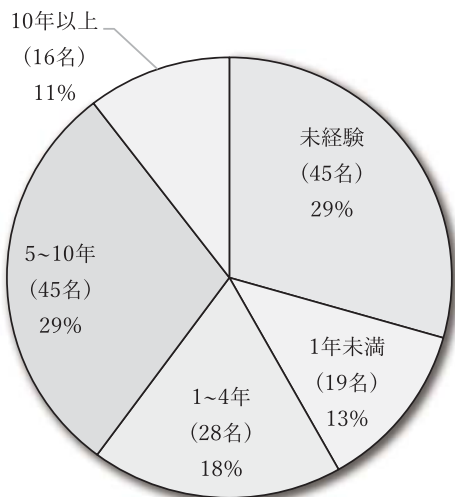


図2 大学入学までのピアノ経験(2018年度)

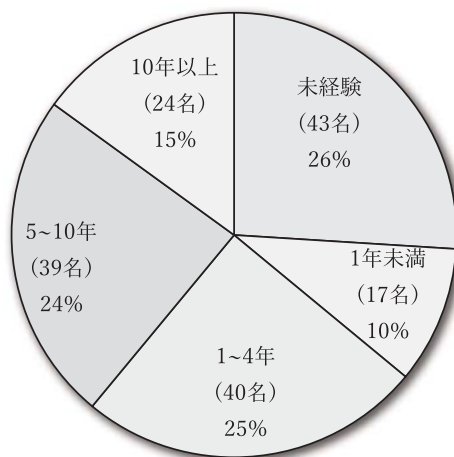


図3 大学入学までのピアノ経験(2019年度)

から25曲を習得する。ソナチネスタートの学生の場合、教則本カテゴリーはソナチネ2曲、リズム曲カテゴリー12曲、弾き歌い曲カテゴリー30曲を習得する。加えて、ブルグミュラー、ソナチネスタートの学生は、1年次の初めに復習のために必ずバイエル98番-105番からの2曲を習得することになっている。「すみれ」、「つばめ」共に、教則本カテゴリーの曲は、担当講師が学生のレベルに応じて課題曲を選択するが、リズム曲や弾き歌い曲のカテゴリーは、学生に自主的に指定のテキスト曲集^{xviii}から課題曲を選ばせるケースが多い。テキスト曲集掲載曲の中でも弾き歌い曲《みんなともだち》は、曲の認知度やメロディーの複雑なリズムを考慮すると決して易しい曲ではなく、「すみれ」の学生だけでなく「つばめ」の学生であってもあまり選択しない曲である。その為、《みんなともだち》は、学生が自主的に課題として選ぶことがほとんどない弾き歌い曲とも言える。以上の状況を踏まえて、残りのアンケート結果を考察していきたい。

注

- i 本号では第四章-1までを(1)として、次号で第四章-2から第五章までを(2)として掲載する。
- ii 「衣川ほか2018」の頁133表32を参照のこと。この表32ではテキスト掲載曲の中で実際に実習で歌った曲が示されているが、《アイスクリームのうた》、《さんぽ》、《勇気100%》などかなり複雑なリズムの曲が含まれていることが分かる。
- iii 「衣川ほか2018」頁133表33を参照のこと。先のテキスト掲載曲25曲に対して、テキストにない曲は41曲にも及ぶことが分かる。
- iv 「衣川ほか2018」頁134。
- v 「武藤ほか2019」では学生が効率的に取得できる簡易伴奏のアレンジについて明らかにしている。

- vi 「武藤ほか2019」を参照のこと。
- vii 「衣川ほか2017」頁52-53の表2-4を参照のこと。
- viii メロディーはアレンジ1番-5番ですべて同じとし、伴奏のみ変えた。1番易しいと見做される1番はコードのベース音などによる単音伴奏で4分音符、又は、2分音符によるシンプルなリズム、2番は単音伴奏だが8分音符のリズムや音の跳躍が含まれるもの、3番は三和音で2分音符等のシンプルなリズムのもの、4番は三和音を分散和音にしたり8分音符などでリズムを付けたりしたもの、1番難しいとされる5番は自由なアレンジとしシンコペーションや16分音符のリズムなども含む伴奏とした。
- ix 《みんなともだち》の伴奏アレンジについては、Ⅲ章1)にて詳しく述べる。
- x 「衣川ほか2017」頁68の資料3-1を参照のこと。大学入学以前に知っていた曲としては、《みんなともだち》は48名の学生しか挙げていない。
- xi 「久保2017」頁195-198を参照のこと。
- xii アップテンポでリズムの複雑な曲のリズム打ちや聴音を実施するには、音楽の専門家レベルのトレーニングが必要となってくるのは明らかである。
- xiii 「佐藤2018」頁124-127を参照のこと。
- xiv 「高崎2016」頁37を参照のこと。
- xv 「武藤ほか2019」頁114図4を参照のこと。
- xvi 「武藤ほか2019」頁111図1より比較の為、抜粋。
- xvii その他に3年次前期に選択科目としてのピアノの授業があるが、全員が履修するわけではない為、ここでは扱わない。
- xviii 「器楽・声楽Ⅰ・Ⅱ」では以下のテキスト曲集を使用している。坂井康子・岡林典子・南夏世・衣川久美子・古庵晶子・篠原真紀子・山崎和子・由井敦子(2015)『3コードでOK なるほどかんたん!リズム曲集〜保育・教育現場で楽しく弾けてすぐに役立つ〜』サーベル社、坂井康子・岡林典子・南夏世・山崎和子(2006)『幼稚園教諭、保育士、小学校教員をめざす人のためのピアノテキスト-歌おう♪弾こう♪こどもとともに』ヤマハミュージックメディア、坂井康子・岡林典子・

南夏世・佐野仁美（2008）『教育・保育現場で毎日使える コードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー』ヤマハミュージックメディア。《みんなともだち》を始め、《ちゅうりっぷ》、《大きなくりの木の下で》、《どんぐりころころ》、《山の音楽家》、《森のくまさん》もこれらのテキスト曲集に含まれている。

参考文献

- 衣川久美子・山崎和子・由井敦子・坂井康子（2017）「総合子ども学科 学生の音楽経験と既知曲の傾向－2012年度～2015年度 アンケート調査による比較分析－」甲南女子大学研究紀要人間科学編第 53 号
- 衣川久美子・山崎和子・由井敦子（2018）「総合子ども学科 保育実習と幼稚園実習の傾向－2016 年度アンケート調査による音楽分野の分析－」甲南女子大学研究紀要人間科学編第 54 号
- 久保絃子（2017）「教科『音楽』におけるアプローチについての考察－ピアノ実技レッスンの事例を基に－」玉川大学教育学部紀要第 17 号
- 坂井康子・岡林典子・南夏世・山崎和子（2006）『幼稚園教諭，保育士，小学校教員をめざす人のためのピアノ

テキスト－歌おう♪弾こう♪こどもとともに』ヤマハミュージックメディア

坂井康子・岡林典子・南夏世・佐野仁美（2008）『教育・保育現場で毎日使える コードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー』ヤマハミュージックメディア

坂井康子・岡林典子・南夏世・衣川久美子・古庵晶子・篠原真紀子・山崎和子・由井敦子（2015）『3 コードで OK なるほどかんたん！リズム曲集～保育・教育現場で楽しく弾けてすぐに役立つ～』サーベル社

佐藤千佳（2018）「教員・保育者養成におけるピアノ初心者に対する実用的指導法の考察：音価の観点から」川口短期大学紀要第 32 号

高崎展好（2016）「保育者養成における音楽表現のためのリズム・ソルフェージュ指導法」環太平洋大学研究紀要第 10 号

武藤純子・大西ゆみ・喜多ちえ・幸野紀子・堀崎峰子・由井敦子・坂井康子（2019）「弾き歌いの指導における簡易伴奏の研究－アンケート調査に基づく簡易伴奏スタイルの分析－」甲南女子大学研究紀要人間科学編第 55 号

資料2 アンケートの楽譜を練習して難しかった箇所
「弾き歌いの伴奏についてのアンケート（2018）」より

アレンジ	難しかった箇所（自由記述）
1 番	右手メロディーのタイと左手伴奏のリズムのタイミングが難しい
	リズムが難しい
	指使いが難しい
	メロディーのリズムが分からない
	7小節目のメロディーの3連符が難しい
	左手が急に4分音符に変わるところが難しい
	曲を知らないから楽譜を見てもよく分からない
2 番	伴奏の付点2分音符と4分音符のリズムが難しい
	右手タイと左手の付点2分音符と4分音符のリズムの合わせ方が難しい
	左手の音域が変わるのが難しい
3 番	和音のポジション変更が難しい
	左手伴奏が2分音符+2分音符のリズムになってしまう
	和音の変化が難しい
	和音の指使いが難しい
4 番	和音にシャープやフラットが付いているのが難しい
	9小節目の単音から10小節目の和音の入りが難しい
	25小節目のC ₇ の和音が難しい
	和音の変化が難しいので間違える
	和音の音域が広いところが難しい
5 番	左手和音のシンコペーションのリズムが難しい
	左手9小節目などの付点のリズムとタイの組み合わせが難しい
	左手の指使いが難しい
	10・11小節目のように左手の重音から単音への移動が難しい
	慣れていない和音が難しい
	和音がすぐ変わるので難しい
	リズムが分からない
	リズムパターンが急に変わるのが難しい
	和音の跳躍が難しい

資料3 「《みんなともだち》についてのアンケート (2019)」

「みんなともだち」についてのアンケート（2019）

「器楽・声楽」の授業をより良いものにするために、アンケートに協力してください。

配布楽譜を、1 週間で1 時間程度練習してください。まとめて1 日で練習しても、毎日少しずつ練習しても結構ですが、合計1 時間程度は守ってください。楽譜はアレンジ A からアレンジ D の4 パターンありますが、アレンジ A から始めて、順番にできる楽譜まで練習して下さい。人前で弾き歌いのできるレベルになったら、次の楽譜に進んでください。難しかったところや弾けなかったところは、楽譜に赤で丸印を書いて、その理由を楽譜の余白に書いてください。このアンケート用紙は、楽譜と一緒に次のレッスン時に提出してください。

学籍番号： _____ 名前： _____

1. 大学入学までのピアノ経験
- | | | | | |
|-----|------|------|-------|-------|
| 未経験 | 1年未満 | 1～4年 | 5～10年 | 10年以上 |
|-----|------|------|-------|-------|
2. アレンジA-Dのどこまで弾けましたか？
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| アレンジA | アレンジB | アレンジC | アレンジD |
|-------|-------|-------|-------|
3. 事前指導は役に立ちましたか？
- | | | |
|-------|------|----------|
| 役に立った | まあまあ | 役に立たなかった |
|-------|------|----------|
4. 他の楽器やダンスの経験があれば教えてください。（学校の授業は除く。）
- | | |
|--------------|----------------|
| () 他の楽器：() | 例：フルート、打楽器など |
| 期間 () | 年くらい) |
| () ダンス名：() | 例：ヒップホップ、パレエなど |
| 期間 () | 年くらい) |
| () | どちらも経験がありません。 |
5. あなたが難しかったのは、どんなリズムですか？（複数回答可）
- | |
|---|
| () 左手の ♩ ♩ のリズム（アレンジCの左手のリズムパターン） |
| () メロディーの ♩ のリズム（アレンジA-Dのメロディーのリズム） |
| () メロディーのシンコペーション ♩ ♩ （アレンジA-Dのメロディー3小節目1-2拍目） |
| () その他 【 】 |
6. 難しかったところや弾けなかったところは、楽譜に赤で丸印を書いて、その理由を楽譜の余白に書いてください。

坂井康子、秋山文代、大西ゆみ、喜多ちえ、幸野紀子、堀崎峰子、武藤純子、由井敦子